

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年12月12日
【四半期会計期間】	第25期第3四半期（自 平成26年8月1日 至 平成26年10月31日）
【会社名】	株式会社アマガサ
【英訳名】	AMAGASA Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 天笠 竜蔵
【本店の所在の場所】	東京都台東区浅草六丁目36番2号
【電話番号】	03 - 3871 - 0111
【事務連絡者氏名】	経営企画室長 鈴木 親
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区浅草六丁目36番2号
【電話番号】	03 - 3871 - 0111
【事務連絡者氏名】	経営企画室長 鈴木 親
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第24期 第3四半期連結 累計期間	第25期 第3四半期連結 累計期間	第24期
会計期間	自平成25年2月1日 至平成25年10月31日	自平成26年2月1日 至平成26年10月31日	自平成25年2月1日 至平成26年1月31日
売上高 (千円)	5,393,678	5,804,026	6,848,819
経常利益 (千円)	287,444	312,026	268,873
四半期(当期)純利益 (千円)	172,520	186,447	147,531
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	187,858	190,876	171,306
純資産額 (千円)	1,975,694	2,120,208	1,959,143
総資産額 (千円)	6,206,347	6,329,115	5,470,916
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	92.59	100.06	79.18
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.8	33.5	35.8

回次	第24期 第3四半期連結 会計期間	第25期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年8月1日 至平成25年10月31日	自平成26年8月1日 至平成26年10月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	39.79	43.50

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における婦人靴業界におきましては、消費税率の引き上げによる消費マインドの冷え込みや、円安による輸入商材のコスト増の影響など、厳しい状況が続いております。

こうした環境のもと、当第3四半期連結累計期間において当社は、従来の方針を維持し、デザイン性を追求した高付加価値商材の積極的な投入、適正価格の維持に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間につきましては、売上高5,804百万円(前年同期比7.6%増)、営業利益339百万円(同24.2%増)、経常利益312百万円(同8.6%増)、四半期純利益186百万円(同8.1%増)となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は以下のとおりであります。なお、セグメントの業績については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

#### (卸売事業)

当第3四半期連結累計期間におきましては、通販向け販売やアパレル向け販売が前年の売上を下回ったものの、百貨店向け販売の好調がこれを補い、また専門店向け販売が計画を若干上回ったことから、売上高は前年同期より微増となりました。

また、円安の影響により、直インポート商材の仕入原価は上昇しましたが、プロパー販売を維持できたことから営業利益は前年を僅かに上回りました。

この結果、卸売事業における売上高は4,202百万円(前年同期比0.8%増)、営業利益803百万円(同0.3%増)となりました。

#### (小売事業)

当第3四半期連結累計期間におきましては、既存店の売上が概ね堅調に推移したことに加え、新規店の売上も計画を上回ったことから、売上高については前年同期を上回りました。

また、前年同時期に比較して新規店が少ないことから出店費用が減少し、営業利益につきましては前年を大きく上回りました。

この結果、小売事業における売上高は1,601百万円(前年同期比30.7%増)、営業利益191百万円(同75.9%増)となりました。

#### (その他事業)

中国現地法人を通じた直接輸入及び検品足数の減少により、その他事業における売上高は36百万円(前年同期比7.2%減)、また品質管理強化に伴う人件費等の増加により販売費・一般管理費が増加したことから、営業利益は0百万円(同97.5%減)となりました。

#### (2) 財政状況

##### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、2,675百万円(前連結会計年度末は1,868百万円)となり、806百万円増加しました。主な理由は、売上債権の増加(872百万円から1,445百万円へ573百万円増)、商品在庫の増加(280百万円から521百万円へ240百万円増)であります。

また、固定資産の残高は、3,654百万円(前連結会計年度末は3,602百万円)となり、51百万円増加しました。主な理由は、固定資産の取得による増加(143百万円増)、減価償却による減少(150百万円減)及び差入保証金の増加(46百万円増)であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、2,102百万円(前連結会計年度末は1,577百万円)となり、524百万円増加しました。主な理由は、仕入債務の増加(454百万円から942百万円へ487百万円増)、賞与引当金の増加(36百万円増)及び未払法人税等の減少(94百万円から70百万円へ24百万円減)であります。

また、固定負債の残高は、2,106百万円(前連結会計年度末は1,934百万円)となり、172百万円増加しました。主な理由は、運転資金の調達による長期借入金の増加(1,708百万円から1,842百万円へ133百万円増)、リース債務の増加(107百万円から141百万円へ34百万円増)であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、2,120百万円(前連結会計年度末は1,959百万円)となり、161百万円増加しました。主な理由は、四半期純利益の計上186百万円による増加、配当金の支払い129百万円による減少であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,400,000
計	6,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成26年10月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年12月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,920,000	1,920,000	東京証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数 100株
計	1,920,000	1,920,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年8月1日～ 平成26年10月31日	-	1,920,000	-	308,100	-	230,600

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 56,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,863,000	18,630	-
単元未満株式	普通株式 200	-	-
発行済株式総数	1,920,000	-	-
総株主の議決権	-	18,630	-

【自己株式等】

平成26年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アマガサ	東京都台東区浅草六丁目 36番2号	56,800	-	56,800	2.96
計	-	56,800	-	56,800	2.96

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年8月1日から平成26年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年2月1日から平成26年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、優成監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	693,572	692,212
受取手形及び売掛金	872,366	1,445,566
商品及び製品	280,928	521,853
その他	25,716	28,145
貸倒引当金	4,400	12,700
流動資産合計	1,868,183	2,675,078
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,567,922	1,535,002
土地	1,529,346	1,529,346
その他(純額)	86,985	88,752
有形固定資産合計	3,184,254	3,153,101
無形固定資産	112,957	143,149
投資その他の資産	2,305,520	2,357,785
固定資産合計	3,602,732	3,654,037
資産合計	5,470,916	6,329,115
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	454,968	942,967
1年内返済予定の長期借入金	794,806	775,556
未払法人税等	94,200	70,080
賞与引当金	-	36,918
返品調整引当金	6,500	12,200
その他	226,947	264,687
流動負債合計	1,577,422	2,102,408
固定負債		
長期借入金	1,708,480	1,842,027
退職給付引当金	101,181	105,476
その他	124,688	158,994
固定負債合計	1,934,350	2,106,498
負債合計	3,511,772	4,208,906



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	308,100	308,100
資本剰余金	230,600	230,600
利益剰余金	1,453,050	1,609,687
自己株式	71,056	71,056
株主資本合計	1,920,694	2,077,330
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,183	13,090
為替換算調整勘定	27,265	29,787
その他の包括利益累計額合計	38,449	42,877
純資産合計	1,959,143	2,120,208
負債純資産合計	5,470,916	6,329,115

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)
売上高	5,393,678	5,804,026
売上原価	3,450,394	3,584,536
売上総利益	1,943,283	2,219,490
販売費及び一般管理費	1,669,747	1,879,845
営業利益	273,535	339,644
営業外収益		
受取利息	1,249	1,529
仕入割引	41,258	-
その他	15,813	7,777
営業外収益合計	58,321	9,307
営業外費用		
支払利息	31,718	26,693
その他	12,693	10,231
営業外費用合計	44,412	36,924
経常利益	287,444	312,026
特別利益		
固定資産売却益	113	-
特別利益合計	113	-
特別損失		
固定資産除却損	80	64
特別損失合計	80	64
税金等調整前四半期純利益	287,477	311,962
法人税等	114,956	125,514
少数株主損益調整前四半期純利益	172,520	186,447
四半期純利益	172,520	186,447

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	172,520	186,447
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,604	1,906
為替換算調整勘定	13,732	2,522
その他の包括利益合計	15,337	4,428
四半期包括利益	187,858	190,876
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	187,858	190,876
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
受取手形割引高	195,419千円	-千円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
投資その他の資産	13,838千円	9,095千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)
減価償却費	147,782千円	150,662千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月25日 定時株主総会	普通株式	29,811	3,200	平成25年1月31日	平成25年4月26日	利益剰余金

(注) 当社は、平成25年2月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、上記配当金については、当該株式分割前の株式数を基準に配当を実施しております。

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年4月24日 定時株主総会	普通株式	29,811	16	平成26年1月31日	平成26年4月25日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	卸売事業	小売事業	その他事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	4,168,449	1,225,228	-	5,393,678	-	5,393,678
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	39,338	39,338	39,338	-
計	4,168,449	1,225,228	39,338	5,433,016	39,338	5,393,678
セグメント利益	800,864	109,018	4,076	913,959	640,423	273,535

(注)1. セグメント利益の調整額 640,423千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用等は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	卸売事業	小売事業	その他事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	4,202,323	1,601,703	-	5,804,026	-	5,804,026
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	36,509	36,509	36,509	-
計	4,202,323	1,601,703	36,509	5,840,536	36,509	5,804,026
セグメント利益	803,412	191,794	99	995,307	655,662	339,644

(注)1. セグメント利益の調整額 655,662千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用等は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成25年 2 月 1 日 至 平成25年10月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成26年 2 月 1 日 至 平成26年10月31日 )
1 株当たり四半期純利益金額	92円59銭	100円06銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純利益金額 ( 千円 )	172,520	186,447
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 ( 千円 )	172,520	186,447
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	1,863,200	1,863,200

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年12月10日

株式会社アマガサ

取締役会 御中

### 優成監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 善孝 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小松 亮一 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 本間 洋一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アマガサの平成26年2月1日から平成27年1月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年8月1日から平成26年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年2月1日から平成26年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アマガサ及び連結子会社の平成26年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。